

子どもの健康と病気の予防④

— 新型コロナウイルス感染症流行下での学校活動 —

小宅医院 小宅民子

新型コロナウイルス感染症は、成人だけでなく子どもも増加しています。検査陽性者のうち、10歳代が占める割合は、2020年4月の時点では2.3%にとどまっていたが、2021年7月には7.3%まで増加しています。小児新型コロナウイルス感染症の感染源は2021年7月から8月17日の報告では、家族内感染72%、学校4%、幼稚園・保育園は9%でした。現時点でこれからの感染状況を正確に予測することは困難ですが、学校、幼稚園・保育園での感染者の増加が懸念されます。

日本小児科学会・日本小児科医会は、「現在の新型コロナウイルス感染症流行下での学校活動について」を提言しています。2学期の学校再開は、それぞれの地域の感染状況に合わせて、やむを得ない場合は休校や学級閉鎖、分散登校などを考慮する必要があります。学校内では、引き続き効果的な感染対策（不織布マスクの着用や教室の十分な換気など）を徹底する必要があります。また、学習塾や学童保育等校外での感染対策の徹底も重要です。学校や学習

塾、学童保育の教職員等は、子どもの最善の利益のために、積極的なワクチン接種を検討してください。休校により子どもの養育のため仕事を休まざるを得ない保護者に対しては、職場などにおいて理解と支援が必要です。

10歳代ではウイルス感染性が成人に近いといわれており、中学校・高等学校は、小学校よりも強い感染対策が必要です。特に高等学校では、リモート教育の積極的な活用が望まれます。また、課外活動でのクラスター発生が報告されており、流行状況を配慮した制限も必要です。

不織布マスクは布マスクやウレタンマスクに比べ感染予防に優れています。しかし、使用量が多いため家庭の経済的負担になりかねません。子ども用マスクの無償提供を考慮すべきです。また、今後の感染拡大に備え、抗原迅速検査キットの確保、地域での子どもの入院医療体制や、自宅療養の子どものためのオンライン診療制度の強化も必要です。また、感染した子どもやその家族、関係者などが誹謗中傷やいじめなど受けることがないようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症流行下での学校活動の5つのポイント

- 感染状況に合わせ、休校や学級閉鎖、分散登校などを考慮
- 学習塾、学童保育等の感染対策の徹底・教職員のワクチン接種
- 職場の保護者に対する理解と支援
- リモート教育の活用・課外活動の制限
- 不織布マスクの無償提供・医療体制の強化